玉城信光沖縄県政策参与への インタビュー

日時：平成19年11月8日（木）13：30～
場所：県庁　政策参与室

玉井理事（左）と玉城信光参与（右）

○玉井理事　先ず、4月から沖縄県政策参与にご就任されての率直なご感想をお聞かせいただけますか。

○玉城参与　大変な仕事です。最近、各方面から様々な話を持ってこられる方々が多くなってきました。これまでの調整で一番上手くいったと思うのが助産師養成コースの設置です。日本助産師会沖縄県支部の皆さんが来られ、助産師コースをどうしたら良いか、県立浦添看護学校に設置するのが良いか、県立看護大学が良いのかということを検討し、結局は、県立看護大学が助産師コースの開設にむけて仕事を進めていたということが分かりました。産婦人科医会の先生方も一緒になってやっていきましょうということで、上手くまとまりました。

○玉井理事　実感として、参与の発言力はかなり強いものがあったのではないでしょうか。

○玉城参与　殆どないと思っています。ただ、非常勤ですから自分で遠慮する部分もありますが、地位としては副知事クラスとのことです。例えば、いろいろな要請が来ますが、その状況を確認したい場合、担当部局が必ずレクチャーに来ます。今一番大きいのは、医療法の改正に伴い医療計画が見直されますが、この時期に県医師会から県へ出向したということは、その打ち合わせを進めるにあたり非常に良いと思います。行政サイドも医師会との摺り合わせが必要ですから、私がここに居るということで、結構スムーズにいっていると思っています。

○玉井理事　行政の内部にいるということは、

いろんな折衝事もやり易くなるんですね。

○玉城参与　行政の方も非常に助かっているのは、今まで事務的な話を下から積み上げていく方法が必要でしたが、県医師会の三役の一角に居る人間が、ここで話を伺って、医師会の理事会にそのまま話を通すということで、摺り合わせが上のレベルで出来るようになりました。そういったところが良いかもしれません。

○玉井理事　ややもすると、県医師会側からかける圧力みたいに玉城先生が扱われてしまうのかという気がしていました。

○玉城参与　時々そういう発言をする時もありますね。

○玉井理事　でも、実際には行政としても、先生がこちらで執務されているというのは、かなりプラスになっているのでしょう。

○玉城参与　それは皆さんに聞いておりませんので、どうでしょうか。ここにいると、皆さんは福祉保健部の話だけをしているような感じがすると思いますが、実は、医療に関する新しい企画を立てたいという時には企画部から話に来ますし、その他観光商工部からも沖縄型リゾートを利用した健康産業を成り立たせたいということで、国の予算を持ってきます。健康には、福祉保健部が絡みますが、行政の縦割りで、彼らも直接は言えず私を介して話をする様なところもあり、その辺がある程度調整役として良いのかと思いますが、実際にその事が上手くいっているのかは分かりません。

○玉井理事　様々なプロジェクトを始めようとする時に、どこから手を付けて良いのか、どこに先ず話をしていいのか、どの程度の感触があるのかというのが分からないと思います。例えば観光産業などは、先生が内部にいらっしゃると、先ず玉城参与に話を聞いてみようとかという形になってくるかと思います。

○玉城参与　それは非常にあります。観光産業については、沖縄総合事務局と観光商工部は以前からの付き合いがありますので、私を経由しながら、沖縄型医療産業をどのようにして根付かせることが出来るかということを一緒になっていろいろなプロジェクトを組んでいます。また、企画部は、アジアゲイトウェイ構想の中で、沖縄の医療・福祉・健康というものが表に立てるかということを企画しています。

沖縄県政策参与
玉城信光先生

【略　歴】

昭和48年 9 月	東京大学医学部卒業
昭和48年12月	東京大学医学部附属病院分院外科勤務
昭和49年12月	熊谷市藤間病院勤務
昭和54年 2 月	東京大学医学部第3外科勤務
昭和54年11月	沖縄県立那覇病院勤務
平成 4 年 4 月	沖縄県医師会理事
平成 8 年 5 月	那覇西クリニック開業
平成12年 4 月	那覇市医師会理事
平成14年 4 月	那覇市医師会常任理事
平成17年11月	那覇西クリニックまかび開業
平成18年 4 月	沖縄県医師会副会長
平成19年 4 月	沖縄県政策参与

○玉井理事　療養病床の削減問題など様々な問題が山積しておりますが、やはり先生の今のお立場で課せられる課題は多いですね。

○玉城参与　一番難しい問題です。結局は、今医療法の改正でいろいろな問題が出てきているのですが、医療というのは予防医学から、在宅医療まで一連の流れがあるような感じがしていて、それをどうするのかが重要です。県庁の中にいて思うのは、県は企画を立てて文書を書くのは得意ですが、最終的に誰がどうやって、それを実現していくかというプログラムを書けません。

○玉井理事　いろいろな事のプランを立てても実行するのは人です。人材育成、又は活躍でき

る環境づくりが大事だと思います。

○玉城参与　本来は県の仕事だと思いますが、やはり国の法律に基づいて、いろいろな政策を県単位でやることで殆ど精一杯です。それを動かして実現させるところまではなかなかいっていません。ドクターバンクが去年の会議に出て、今、崎原先生らに委託をしていますが、結局、委託事業をせざるを得ません。そういう委託先の中心に沖縄県医師会があってもいいのではないかと私自身は思っています。

○玉井理事　人材育成というのは、非常に大きな問題であります。また、それは継続していかないといけない問題でもあります。こういうことは、本来なら最初できちんとシステム作りをすると良いと思いますが、走りながらやらないといけないところも多いですよね。

○玉城参与　産婦人科医師不足については、県立病院、大学病院、民間病院の連携が出来ればと思っています。今あちらこちらの病院で人材を育成しています。来年は後期研修の3期目となり、再来年からは人材を外へ出すことができるようになります。県立病院が人手不足と言った時に、このような人達を採用したいのか、採用したくないのか、県のスタンスが見えてきません。

○玉井理事　先生は「発想」という言葉をよく使われますが、これから求められる「発想」とは何でしょうか。先生のお考えをお聞かせいただけますか。

○玉城参与　難しいですね。おそらく各々が地域連携を本気になって考えるかどうか、自分の側だけに利益を持って行くのか、その利益を外にも提供して皆のものにしていくのかという考え方だと思います。研修制度についていうと、県立中部病院は、ハワイ大学と提携して研修事業を行ってきたことによって良くなったということがあります。しかし、それをいつまでも県立中部病院だけにしておくのか、そのシステムを利用して沖縄県の全ての研修生にメリットがあるシステムを作れるのかということを考えます。

○玉井理事　後期研修制度は、今大きく様変わりを求められていると思いますが、やはり後期研修が充実していかなければ、医師不足は解消されないし、魅力ある研修システムが本県に根付きません。その為にも大事なシステムを作らなければならないと思いますが、その為にはグローバルな発想が必要でしょうか。

○玉城参与　例えば、沖縄県で人材が育成されても沖縄で働く場がなければ、本土へ医師を派遣して、その医師達を沖縄県からローテーションさせて、また沖縄県に戻すというシステムがあっても良いと思います。県立病院が医師不足と言いますが、本当に県内の人材を活用する気がなければ、沖縄県から県外に出るという更に枠を一つ超えた発想が今頭の中にあります。民間病院で産婦人科医師の育成が進んでいますが、そのような医師を産婦人科が不足している県立病院が役立てるつもりがあるかどうかです。県立病院はもう少し大きくものを見ないといけません。産婦人科の医師の足りない東北や北海道へ沖縄から医師を派遣することが出来れば凄いことです。但し、必ず沖縄に戻して、また次の世代を派遣していく、そうしていくうちに、あちらこちらにネットワークが広がり、何れは全国に派遣出来るチャンスが来るかもしれません。沖縄を人材育成のメッカにするのです。

○玉井理事　先程、観光の話が出ましたが、県庁にいらっしゃることで、異業種の方々と接することが出来ると思いますので、これから別の分野で医療が活躍するという発想も生まれてくるのでしょうか。

○玉城参与　統合医療については、私が反対している様に思われておりますが、決して反対しているわけではありません。これから統合医療をどうのようにして実証していくのかが必要だと思います。沖縄県では、医療という枠を離れて、いろいろ情報が集まってきて、今いろいろな面白い事が起こっています。これまでは、その殆どを知りませんでした。沖縄型エステ・スパを作ろうということで、その研究会があり、沖縄型エステは何が特徴になるかを一生懸命考えています。本当に沖縄が癒しの島になれるのか、また、県内で大規模な学会が開催されているが、沖縄なら学会に奥様方を同伴されて、ご主人は学会に出席し、その間に奥様方は観光に

行ったりエステをしたりして遊べるという空間が出来れば観光にもプラスになります。瀧下教授が日本高血圧学会を県内で開催した際に、いろいろな方にお願いをして、首里城前の首里杜館で会長招宴を開催することが出来ました。これは大きな沖縄コンベンションの突破口の一つだと思います。当日は、首里城の方から満月が上がってきて、最高のシチュエーションだったそうです。首里杜館のレストランとして使っている場所を夜使わせてもらったのですが、いろいろな人とお付き合いが出来た中でお願いしたところがありました。これから首里城をメインにしながら、学会の会長招宴のようなことが出来る様になると、沖縄の観光をアピールするもう一つのイベントとなります。医療の中にいると分かりませんが、私たちの周りではいろいろな事が起こっているのです。県庁に来て成功したのはこの二つですね。

○玉井理事　まだ具体的にはならなくても、いろいろな方々の動きが始まっているのかもしれません。

○玉城参与　実は、ここ県庁に出向し若干疲れがたまってきました。人はあまり偉くなるものじゃないと思いました。私にとっての仕事がないのです。外来などの現場では、患者さんとずっと話をしますが、ここでは、打ち合わせや面会者がいないと一日中コンピュータをやったり、新聞を読んでいる日もありました。

○玉井理事　臨床医というのは、やはり現場で臨床しているというのが重要ですよね。

○玉城参与　私には、印鑑を押すだけの仕事は絶対に出来ませんね。

○玉井理事　生涯一医師であるというスタンスが大切だと思いますね。最後の質問になりますが、先生の日頃のストレス解消法、又は趣味等を教えていただけますでしょうか。また、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

○玉城参与　趣味は旅をすることですが殆ど出来ません。今のストレス解消法は、妻と外で食事をすることです。それと、お酒は私の味方をしてくれます。1 回お酒を飲んでおしゃべりをすると、ストレスが殆どなくなります。あまり悲しい酒を飲んだことがありませんので助かっています。また、飲み過ぎた翌日はお酒が飲めず、必ず休肝日が入るので、これは親からもらったいい体だと思っています。

座右の銘は誰の言葉でもありませんが、どんなに困っていても「必ず時間が解決してくれる」ということです。どんなに焦っていても気が付いたら過ぎ去った過去になっているのです。何かに囚われて悩むことはありません。それと、良いことと悪いことは必ず交互にやってくるということです。私の場合5年サイクルです。だから、悪いと思っても焦りません。しばらく待っているうちに必ず転換点があらわれます。

○玉井理事　私が産業医をやっている会社の社長が同じ様に、成功している時に既に失敗は始まっていて、失敗している時に成功は始まっているとおっしゃっていました。

○玉城参与　上手くいっている時に、次にダメな日が来るので、その日のためにお金はもちろん、心もエネルギーを蓄積しておかないといけませんね。困ったときに自分のエネルギーを全部使い果たすと死んでしまうことしかなくなります。死にそうになっても、しばらくすると世の中が変わり始めるのが分かります。それが確実に来ます。

○玉井理事　会員の皆さんと共に今後の先生のご活躍を心よりお祈りしております。

本日はお忙しい中、貴重なお時間を割いて頂き、ありがとうございました。

インタビューアー：広報委員　玉井 修